

平成24年度 研究開発評価シンポジウム ～研究開発におけるアウトカム及びインパクトの評価について～

1. 趣旨・目的

研究及び開発（以下「研究開発」）は、分野深化、大規模化、融合化等の方向に加えて、社会的・経済的な要請や国民への成果還元のために、より効果的で効率的な推進が求められています。そのため、評価の対象がより複雑なものへと拡大している中、評価の水準も高度なものが必要となっており、評価システムの改革が求められています。

文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官付（調査・評価担当）では、こうした状況を踏まえ、大学や独立行政法人等の多くの研究開発機関との研究開発評価活動に関する意見交換や委託調査等を実施してきており、その中で把握できた様々な課題を関係者間で共有するとともに、その解決に向けた支援事業を推進しています。

本趣旨に基づき、研究開発機関における研究開発評価の効率化及び充実を促進するとともに、評価関係者の評価意識の向上や評価関係者同士の連携促進を目的として、研究開発評価シンポジウムを企画・開催いたします。

2. 対象者

主に、国、資金配分機関、大学及び独立行政法人等の研究開発機関（以下、国及び研究開発機関という）における評価者、評価人材、研究マネジメント担当者等を対象とする。

3. テーマ

「研究開発におけるアウトカム及びインパクトの評価について」

我が国の研究開発評価は、「国の研究開発評価に関する大綱的指針」（以下、「大綱的指針」という。）の下に、各府省の評価指針が整備され、その定着や改善が進められてきました。

文部科学省では、平成20年10月の大綱的指針の改定を受け、平成21年2月に「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」の見直しを行うとともに、研究開発評価システムの一層の改革を進めるため、第4期科学技術基本計画も視野に入れた、評価システム改革の課題とその改善方策について検討を進め、「研究開発評価システム改革の方向性について（審議のまとめ）」（平成21年8月 科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会研究評価部会）を取りまとめてきました。現在、平成24年12月の大綱的指針の改定を受け、文部科学省の評価指針についても、科学技術・学術審議会研究開発評価部会の下で、大綱的指針の改定を踏まえた見直しを行っています。

本シンポジウムでは、今回の大綱的指針の改定を踏まえ、研究開発施策及び研究開発課題を評価する際に求められる「アウトカム」及び「インパクト」とは何を指すのか、「研究開発のアウトカム及びインパクトを評価する目的・意義」、「基礎研究やシステム改革等、施策の目的に応じた多様なアウトカム及びインパクトの評価の在り方」、「アウトカム及びインパクトを評価する際の手法」など、研究開発におけるアウトカム及びインパクトの評価について、実例を交えて討論します。

4. 開催日等

開催日 平成25年3月5日(火) 13時30分～17時15分
会場 ベルサール神保町 ルーム1+2
定員 150名程度

5. プログラム

13:30 開会

13:30～13:35 主催者挨拶 文部科学省科学技術・学術政策局長

【第一部 講演】

13:35～14:05 講演「なぜ今、アウトカムなのか？インパクトなのか？」

筑波大学ビジネスサイエンス系教授 小林 信一

14:05～14:35 事例紹介①

文部科学省国家課題対応型研究開発推進事業

「再生医療の実現化プロジェクト」

プロジェクトオフィサー/東京医科歯科大学医学部教授 赤澤 智宏

14:35～15:05 事例紹介②

科学技術振興機構社会技術研究開発センター (RISTEX)

「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究開発プログラム

アソシエイトフェロー 重藤 さわ子

15:05～15:20 休憩

【第二部 パネル・ディスカッション】

15:20～17:15 パネル・ディスカッション

モデレーター 伊地知 寛博 (成城大学社会イノベーション学部教授)

パネリスト 小林 信一 (筑波大学ビジネスサイエンス系教授)

赤澤 智宏 (文部科学省国家課題対応型研究開発推進事業

「再生医療の実現化プロジェクト」

プロジェクトオフィサー/東京医科歯科大学医学部教授)

重藤 さわ子 (科学技術振興機構社会技術研究開発センター

(RISTEX)「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究開発プログラム

アソシエイトフェロー)

17:15 閉会